

氏名	荒木康之		
学位の種類	医学博士		
学位授与番号	博乙第1897号		
学位授与の日付	昭和63年6月30日		
学位授与の要件	博士の学位論文提出者（学位規則第5条第2項該当）		
学位論文題目	ラット新鮮門脈血清によるラット肝類洞内皮細胞の培養維持とその増殖誘導活性		
論文審査委員	教授 佐藤二郎	教授 太田善介	教授 木村郁郎

学位論文内容の要旨

ラット肝よりコラゲナーゼ灌流法に続く Centrifugal Elutriation にて類洞内皮細胞を分離しその初代培養を行なった。

類洞内皮細胞は通常のプラスチック培養皿にはほとんど接着を示さないが、コラーゲン塗布培養皿では接着性が増強し、450 × g, 7分の遠心操作を加えることによりさらに接着性が高まることが判明した。この細胞接着には血清因子による増強作用は見出せなかった。しかし、接着を完了した細胞の培養維持には血清因子が必要であり、ラット新鮮門脈血清にはその有効成分が含まれていることが判明した。また、ラット新鮮門脈血清は培養の維持のみならず、類洞内皮細胞の増殖誘導活性も存在することが示された。こうしたラット新鮮門脈血清に見られた培養維持、増殖誘導活性は、ウシ胎児血清には検出されず、56℃, 30分の熱処理により消失することが判明した。

論文審査の結果の要旨

本研究はコラゲナーゼ灌流法に基く肝組織単離細胞から遠心流出分画法を利用して肝類洞内皮細胞を分離し、従来困難視された内皮細胞系の実験系を作製する試みである。接着マトリックスとしてコラーゲンが必要であり、ラット新鮮門脈血清が、培養維持のみならず、本細胞の増殖誘導作用もあることを示したもので、将来原因の追求に発展するものと思われる。

よって、この論文は医学博士の学位を得る資格があると認めます。